



Y's Tap Dance Party NEWS

発表会
記念号

No.009 2016 WINTER

本日は「ON STAGE 2016」によろしくお越しくささいました。さて Y's サイトに連載の天野俊哉のコラムから、本発表会の振付曲の何曲かについてご紹介いたします。

開演までのしばし、どうぞお楽しみください。

スイングしなけりや意味がない

デューク・エリントンの名曲“*It Don't Mean a Thing*”ですが、「スイングしなけりや意味がない」があまりにもピッタリなので、英語読みだと気分が出ません。



Let it snow~Happy holidays

アメリカのポピュラー界で心地よいメロディで一時代を築いたジュール・スタインとサミー・カーンの作品。演奏にストリングスと鈴の音が加わるとクリスマスソングに様変わり。不思議な曲です。



California Dreaming

私が最初にこの歌を知ったのは、映画「カリフォルニア・ドリーミング」を観た時でした。ママスパパスという四人組の1965年の大ヒット曲で、日本では〈夢のカリフォルニア〉として発売されました。



サムバディ・ラブズ・ミー

“サムバディ・ラブズ・ミー”のタップ・ダンスというと作曲家ジョージ・ガーシュインの伝記映画「アメリカ交響楽」(1945)での可憐なジョン・レスリーと変なウクレレおじさんとのデュエット。そしてハンサムなジーン・ネルソンと美しいドリス・デイがガラスドアを使ってタップを踏む「ブロードウェイの子守唄」(1951)の2つを思い出します。



スローバック#2

“スローバック#2”の原曲を思い出してみました。私が蒲田教室に通っていた頃にこの曲の入ったレコードを見ているのです。確か、ザの付かない「ピーナッツ」というタイトルでした。



Get A Kick Out Of You

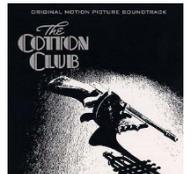
コール・ポーターの伝記映画「夜も昼も」で、美人歌手ジニー・シムズの歌を聴きました。この曲のタイトルを訳

すと“私がときめくのはあなただけ”みたいな意味です。発表会で使われるのはオスカー・ピーターソンのお洒落なジャズ・ピアノ演奏との事。



Cotton Club Stomp #2

ハーレムの白人専用のクラブを舞台にしたギャング映画「コットンクラブ」が製作されてからもう30年です。この“Cotton Club Stomp #2”の場面で、コーラスガールズのダンスが映されるのはほんの数秒だったと記憶しています。



アマポーラ

戦前、オペレッタ映画の大スターだったディアナ・ダービンが年ごろだった1939年、映画会社は新作「First Love」でダービンに恋をさせようと、ある題材を用意しました。それが何とシンデレラ姫でした！ダービンが歌うのが“Amapora”で、それまでの子供っぽさを捨てて、成長した雰囲気でご歌っておりました。



モダンミリー

1967年に、明るいチャールストンと陽気なタップ・ダンスをメインにした単純明快なミュージカル映画「モダン・ミリー」が作られました。ジュリー・アンドリュースとメアリー・タイラー・ムーアの二人がタップを踏むとエレベーターが動き出すギャグが大好きでした。



Happy Feet

“Happy Feet”が歌い踊られる映画「キング・オブ・ジャズ」は1930年の作品で、リズム・ボーイズという3人組の歌手によって歌われます。皆さんがご存じのリズム・ボーイズではありませんよ。後の大歌手ビング・クロスビーをフューチャーしたボーカル・グループの事です。



TWELFTH STREET Rag

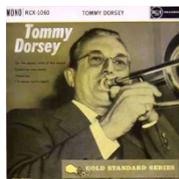
1910年代に作曲され、ディキシランド・ジャズの世界で育ってきた名曲です。タップの世界に入った頃、NHKの音楽番組「ザッツ・ミュージック」でディクシー特集が組まれ、オープニングが小原重徳さんのスイート・ビッグバンドが演奏の〈十二番街のラグ〉でした。すっかり気に入

ってしまった私は、録音して舞台用に。以降 10 年にわたり、女性ダンスチームの十八番となりました。今回、発表会で使われるのは正真正銘ディキシシーランド・ジャズの演奏だそうですよ。



ON THE SUNNYSIDE OF THE STREET

私がインストラクターになって早い時期に振付をした曲です。古い曲ですが、アメリカでは 1944 年にミリオンセラーを記録しました。厚みのある弦楽器の音をベースに、木管楽器と管楽器がかぶさる独特のイントロは、トミー・ドーシー楽団のスタイルでした。



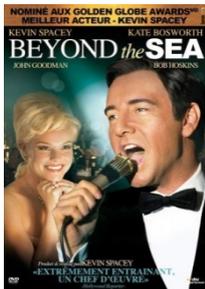
Big Butter and Egg Man

伝説のタップ・ダンサーが顔を揃えるブロードウェイ・ミュージカル「ブラック・アンド・ブルー」は今でもよく見ます。ジミー・スライドやバニー・ブリッグスのソロ・タップに夢中になり真似る人、華やかなアンサンブルの振りをパクる人 etc.私の大のお気に入り、ショーの中でも比較的静かなナンバー“Big Butter and Egg Man”です。



Beyond The Sea

シャンソン歌手シャルル・トレントの名曲“ラ・メール”を 1950 年代にボビー・ダーリンが英語で歌い大ヒットさせました。それが“Beyond the Sea”です。2000 年代に入って、ボビー・ダーリンの伝記映画を作ったのが名優ケビン・スペイシー。全曲吹き替えなしで自分で歌ってしまいました！



That's A PLENTY

1910 年代に作曲され、ディキシシーランド・ジャズの世界で育ってきた名曲です。私が初めて聴いたのは、TBS の音楽番組「夜は気分」のチャールストン特集でした。女性ジャズ歌手しばたはつみさんのパンチの利いた歌、ギャラクシーやニュー・ホリデー・ガールズやクイーンズといったレベルの高いダンサーズが脇を固めました。



Blue Lou

私が“Blue Lou”を初めて聴いたのは 1954 年録音/ニール・ヘフティ編曲のベニー・グッドマンの CD でした。その直後、宝塚花組公演「ザ・フラッシュ」で、私が聴いたのと同じ“Blue Lou”が登場しました。大浦みずきさんとダンサー達が 6 分にわたり踊りまくる粋なダンス・ナンバーで、アメリカから振付師リンダ・ヘイバーマンを招きました。大浦さんの“Blue Lou”は素晴らしかった！



A train

私が最初に聴いた〈A 列車で行こう〉には女性ヴォーカルが入っていました。しかも、本家デューク・エリントン楽団の演奏でした。これ、非常に珍しいバージョンであります。1943 年にタップの女王アン・ミラーが主演したミュージカル「Reveille with Beverly」のサウンドトラック・レコードがそれで、擦りきれぬくらい聴きました。



You'd Be So Nice To Come Home To

1943 年のコロムビア映画「Something to Shout About」。コール・ポーター作詞作曲の主題歌が 1943 年のアカデミー主題歌賞にノミネートされました。それが映画音楽として生まれ、今日ではスタンダード・ジャズの名曲として泣く子も黙る“You'd be So Nice to Come Home to”です。浅野作品では、何と中島美嘉さんの歌うジャズとの事。



I'm Just A Gigolo

私は過去に偶然舞台と映画でこの曲に出会ったことがあります。舞台は、シアターアプルで上演された最初のナショナル・タップデー(1991)で、デビッド・リー・ロスの歌でした。映画の方は、ロバート・デ・ニーロ主演の刑事ドラマで、ルイ・プリマの歌だなあ、と思った記憶があります。



お楽しみ頂きましたでしょうか。Y' サイトにはこの他、映画・宝塚・カレーグルメなど、楽しいコラムを連載中です。また、生徒さんの活動情報や公演・イベント情報などをお知らせしています。ぜひご覧ください。



公演・イベント情報

NATIONAL TAP DAY 2016

日時：2016 年 4 月 16 日 (土) 18:30

17 日 (日) 12:00/16:30

場所：港区芝公園 メルパルクホール

出演：浅野康子・天野俊哉・橋爪麻美 他

編集・発行

Y's Tap Dance Party

Phone & Fax : 045-867-0766

E-mail : info_ytdp@hotmail.co.jp

http://www.ytdp.com/